

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

平成
31年
4月

希望にあふれる輝かしい春をお迎えのことと存じます。皆様おかわりなくお過ごしでしょうか。さっそく Newsletter 第14回配信です！ どうぞお楽しみください。

〈診療科紹介 救命救急科〉

学生の皆さんこんにちは、救命救急科です。私たち自治医大救急科は三次救急指定病院、つまり集中治療を要するような重症患者を主に受け入れます。しかし市中病院と大学病院のちょうど中間にあたる当院の特性とも言えますが、市中肺炎などいわゆる common disease も受け入れており重症、軽症問わずに様々な疾患・外傷に触れられるのは大きな特徴です。もちろん 1st touch は初期研修医が担当し、バックアップには常駐の救急科上級医が付きます。そのためおのびおのびと安心して様々な疾患に立ち向かうことができます。

また、定期的にレクチャーをしたり、実習形式で気管挿管や中心静脈カテーテルの練習をしたりとたくさんの研修医を受け入れてきた実績に伴う教育体制が整っているのも魅力です。

しかも今年栃木県内で唯一の充実段階「S」評価を受けた施設でもあり、今栃木県で最も勢いのある救急科といっても過言ではありません。どうせやるからには楽しく、しかし時には厳しく。豊かに学べる環境がここには揃っています。初期臨床研修必修科だからこそ、私たち救急科を是非見に来てください！スタッフ一同、研修医一同お待ちしております。



【医師国家試験予想問題】

医師国家試験出題基準を見ると、救急医療の知識は各科に横断的にまたがる部分が多く、単独で学習するのは非常に大変です。一方で問われている知識は、実際の医療現場にいる医師であれば簡単にわかる内容も多く、病棟実習がいかに重要かわかります。病棟実習が始まる前に大まかな知識を頭に入れ、病棟実習の際に医師や看護師の動きを見る事も必要になってきます。今回は実際の臨床の現場を見て入ればすぐに解ける問題を出題したいと思います。

●80歳男性、歩行中車にはねられ受傷した。来院時意識レベルはJCS(Japan Coma Scale) III-100でそれ以外のバイタルサインは安定していた。胸部レントゲン・骨盤レントゲン・超音波検査は実施済みである。次に行う検査はどれか。

- a 12誘導心電図
- b 尿検査
- c 脳波検査
- d 血液型検査
- e 頭部CT検査

正解：e

問題解説：

外傷患者の診療は外傷初期診療ガイドライン（通称 JATEC）に従って実施されます。実際の診療では、①バイタルサインの異常の原因を見つける primary survey を行い、②解剖学的に損傷部位を見つける secondary survey の順に進んでいきます。通常 secondary survey では全身の診察を行なったのちに CT などの画像検査を行いますが、例外として Glasgow Coma Scale(GCS)8点以下（JCS では概ね II-30 以上）の場合は“切迫する D”と称して、頭部 CT 検査を優先して実施します。本患者は JCSIII 桁で切迫する D を認めるため、primary survey 終了後直ちに頭部 CT 検査を実施する必要があります。

●72歳の男性。細菌性肺炎の診断で人工呼吸管理を行っている。入院2日目の朝、突然人工呼吸器のアラームがなり SpO₂ 低下を認めた。入院時の喀痰培養の結果は未だ判明していない。

この時点での対応として適切なものはどれか。

- a 抗菌薬を変更する
- b 人工呼吸器の設定を調整する
- c 患者の体位を腹臥位とする
- d 気管チューブのカフ圧を確認する
- e 動脈血液ガス検査実施する

正解：d

問題解説：

人工呼吸器使用中のトラブルシューティングの問題です。原病の悪化に伴い SpO₂ が低下することはありますが、時間的には比較的緩やかな変化です。突然の酸素化低下や換気困難が生じた場合は挿管患者の急変に関連する一般的な4つの原因「DOPE」、すなわち tube Displacement(チューブ位置異常)、tube Obstruction(チューブ閉塞)、Pneumotorax(気胸)、Equipment failure(機器不具合)を想起し確認することが必要です。設問の選択肢は今後いずれも必要な検査や処置ですが、選択肢の中ですぐに実施すべき DOPE の確認のうちの E の確認になります。